

# JA自己改革のシンカ

暮らし・地域編

No.10  
2026.5.29

香川県 JA香川県

※シンカは、以下の3つの意味を含めた言葉。

自己改革の進化から深化へ、真価を発揮する3つの「シンカ」

地域の活性化

## 准組合員の視点を経営の力に「パートナーズクラブ」で組織を活性化



### 「農業振興の応援団」の意思反映・運営参画に活路

JA香川県は、准組合員の視点を組合運営に反映させる「JA香川県パートナーズクラブ」の取り組みを軌道に乗せ、地域に選ばれる組織づくりを加速させている。

このクラブは「農業振興の応援団」である准組合員の声をJAに直接届ける場として2022年度に発足。准組合員の意見を取り入れることでJA事業をよりニーズをふまえたものへ進化させ、中長期的な組織基盤の強化につなげる狙いがあった。

JAでは、17年度から「准組合員との交流会」を各統括店で企画・運営し、JAと地域農業への理解促進を図る取り組みを展開しているが、さらに重層的に意思反映・運営参画できる仕組みを構築している。



意見交換会で活発に発言するメンバーとJA職員

### 具体的な施策へ反映 SNS活用など成果着々

参加者は会社員や子育て世代など幅広く、日常的にJAを利用する人たちが中心。年に3回集まる機会を設け、本格始動した25年度までに、延べ60人以上が参加した。

クラブの活動内容は、JAの事業紹介や、農産物直売所などの施設視察のほか、農業情勢を学ぶ研修、JAに対する提言書作成に向けたワークショップなど多岐にわたる。意見交換会ではJAオリジナル商品や、直売所の利便性など、准組合員であるメンバーとJAとの接点となる事業などをテーマに議論が交わされている。

活動は着実に進められている。例えば、22年度の提言において示された農産物直売所の情報発信の強化は、以前から必要性が認識されていた公式Instagramアカウント開設の方向性と合致するものだった。こうした背景のもと、農産物直売所による公式Instagramの投稿が始まり、情報発信の強化につながっている。

また、25年度からは、公式LINEアカウントを活用した情報発信も開始。メンバーとの接点を増やし、コミュニティとしてのつながりを深めている。



直売所のInstagram画面

### 自ら企画・運営する組合員組織へ 准組合員加入促進にも取り組む

参加した准組合員からは「役職員が自分たちの意見をしっかり受け止めてくれることがうれしい」「継続して参加したい」といった前向きな声が多く、組合との距離が縮まっている。

26年度は、これまでの研修を通じた理解深化に加え、JA香川県が准組合員を「正組合員とともに地域農業を支えるパートナー」、すなわち「農業の応援団」と位置付けていることを踏まえ、その裾野拡大に注力する。イベントでの組合加入のPRや、組合加入促進チラシ案の作成などを予定している。

JAは今後、クラブを単なる意見交換の場にとどめず、イベントの企画段階からの参画や、情報発信を担う「准組合員リーダー」の育成も見据え、准組合員とJAが一体となって新たな価値を生み出す仕組みの構築を目指している。



JAの体験型農園「讃さんファーム」で野菜の収穫を体験するパートナークラブのメンバー

問い合わせ JA全中 JA組織・経営対策部 JA改革支援課 ☎03-6665-6040 ✉jakaikaku.s@zenchu-ja.or.jp

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた動画や全国のJAの取り組みがご覧いただけます。

<https://org.ja-group.jp/challenge/>

発行/JA全中(一般社団法人 全国農業協同組合中央会)



JAグループ

耕そう、大地と地域のみらい。